

市民まちづくり懇談会会議録（発言要旨）

と き	平成29年5月31日（水） 16:00～17:30
と ころ	城崎庁舎 2階 大会議室
市出席者	市長、政策調整部長 事務局（政策調整課：4名）
参加人数	19名（男性18名、女性1名）
会議録（発言要旨）	
男性A	<p>学校ではコミュニケーションとか英語教育に取り組んでいて、これを継続していく中で子どもたちは、きっと変わってくると思っている。</p> <p>この方向を全員で共有し城崎の子どもたちのために進んでいきたいと思っているので協力いただきたい。</p>
市 長	<p>豊岡はまだまだ小さな世界都市といわれる状況ではないですけども、でもこんな具体的な芽があって、こういう方向をもっと増やしていけば、私たちのまちは間違いなく小さな世界都市になれるという意味で具体例をお話した。</p> <p>英語教育では、ローカル&コミュニケーション教育をこの4月から全面展開をしている。柱は3つ、一つ目はふるさと教育をもっと学校でやる。豊岡の優れた点、先ほど世界で活躍している企業の話や、コウノトリ野生復帰の取組みは世界的評価を受けている。城崎国際アートセンターには、世界中から優れたアーティストがぞくぞくとやってきている。（中略）豊岡や城崎が素敵などころであるということ子どもたちにこれまで以上に教えて、ふるさとに対する愛情や愛着、誇りにつなげていこうということです。</p> <p>二つ目は英語です。モデル園でやってきましたが、この4月からすべての公立保育園、幼稚園、認定子ども園、賛同いただける私立の保育園、幼稚園、認定子ども園に、市が指導者を派遣して英語遊びをしていただいている。英語を学ぶのではなく、英語で遊ぶことを通じて何となく体に染み込んでくる。小学校は制度上は5年生以上が英語を学んでいるが、豊岡市は独自の予算で外国人のALTを採用し、すべての公立学校に派遣をして小学1年生から中学3年生まで一貫して英語を身に付けてもらう。</p> <p>これからも豊岡は世界の人々となつがるようになる。子どもたちもこれまで以上に、私たちよりもはるかにたくさんの国々の人々となつがる。そのときに共通の言語を身に付けておいたほうがよいということで英語を身に付けてもらう。</p> <p>三つ目は演劇です。これもモデル校でやってきましたが今年4月からすべての小学6年生と中学1年生に演劇の授業を受けてもらう。自分たちで演劇をつくって演じることを通じて表現力を身に付け、コミュニケーション能力につなげていこうという作戦です。</p> <p>この三つからなるのがローカル&グローバルコミュニケーションです。これがうまくいくと、世界中の人たちに対し、豊岡の子どもたちは自分たちのまちのことを堂々と誇りをもって英語という道具を使って表現力豊かにコミュニケーションをとる。こういった子どもたちが育ってくるはずだと。やがて大人になってこのまちを支えてくれるに違いない。こういった考え方に基づいていますので、しっかりとやっていきたい。</p> <p>最近、城崎の方々にこんな話を聞きます。外湯に小学生が入っていたら、自分以外はみんな外国人だった。肌の黒い人、肌の白い人がいてこの人たちの言葉が分からないことはよくわかる。だけれどもどう見ても日本人と一緒になのに訳の分からないことをしゃべる人がいる。中国語であったり、韓国語であったりするわけですが、そういったことが当たり前の状況の中で、特に城崎の子どもたちは育ち始めている。</p> <p>このような生活実感は但東ではまだありません。この違いはあるんですけども、豊岡全体は今の城崎の方向に行くだろうと思うので、そのために子どもを育てていきたいと思います。ここにも世界と出会うことができる。東京、ニューヨークにいなくても、城崎にいたほうが世界と出会うことができる、そういうまちを創ることができれば、ここには大学がありませんので一旦出ると思いますが、これまで以上に帰ってくるのではないかと。長期戦略として今おっしゃっていただいたような英語教育というものが始まっている。そんなふうにものごとを考えながら12年かけてどんな状態を達成するのかということの基本構想の中に、今日のような意見交換を踏まえうたえ最終的にまとめていきたいと思っている。</p>

男性B	<p>高齢化が大きな社会問題になっていて避けて通れない。認知症対策も従来から行われているが、クローズアップしてもよいのではないか。</p> <p>もう一つは、これからの豊岡市を支えていくのは子どもたちなので、豊岡に誇りを持つまちづくり、人づくり、つながりが大切だと思う。誰にでもあいさつができるような子どもの教育という観点も入れていただきたい。</p>
市長	<p>(前略)</p> <p>認知症は大問題になるだろうということで、認知症対策についての準備も進めている。認知症の原因とかメカニズムが分かってきて、例えば有酸素運動が良いとか、知的な活動が良いとか、夜の睡眠が少ないと認知症が進むとか。昼寝を30分することが良いということが分かってきましたので、そういったことの対応を市も進めている。</p> <p>教育であいさつの意見をいただいたが、小さな世界都市で考えると、別の少し突っ込んだ位置付けができると思う。あいさつはあなたの存在を認めているという意思表示です。おはようと言って無視されたら、私の存在を無視されているような気がする。</p> <p>あいさつをされてうれしいというのは、私の存在を認められているということだと思う。これから様々に違う人たちがこのまちに集まってきたときに、私があなたの存在を認めていることをしっかりと伝えることがそもそも協働であるとか、対話だと、多様性を受け入れることの基本動作なのではないだろうか。小さな世界都市の位置付けをすると、これを身に付けておかないと世界の人々の中で生きていけない。というふうにも言えると思うので、世界の人々とつながっていく、多様な人とつながるときにまず相手を認めるということの意味を伝える中であいさつがしっかりとできる子どもたちができればと思う。</p>
男性C	<p>12年後の農業が見えにくい。コウノトリの関係が伸びていくことは分かるが、平成30年度から生産調整がなくなると価格に影響する。</p> <p>自然との共生が徹底とあるが、例えば有害鳥獣の現在の状況で共生していかなければならないのか。</p>
市長	<p>農業は、この基本構想の中で2カ所に係っている。一つは「自然との共生が徹底されている」の中の「環境経済戦略」です。環境を良くしようとするのではなく、見方に付けたほうが得だという考え方に基づいて環境経済戦略を進めてきた。平成33年度(2021年度)に豊岡の稲作のうちの環境創造型農業を51%までもっていこうというのが豊岡市の公式の目標数値です。昨年段階では33%までできています。コウノトリ育む農法もあればアイガモ農法もあり、つちかおり米があり、他にも有機農法のあり方というものがあります。無農薬も減農薬も含めていますがそれを過半数までもっていくというのが目標数値です。</p> <p>豊岡のような中山間地の農業はお金で勝負してはいけません。1円安いという勝負をしては絶対に勝てない。むしろ高くても買ってもらえるような農業に舵を切っていかなければなりません。コウノトリ育む農法が33%まで来ていることを思うとこの方向は間違っていないのではないか。コウノトリ育む農法は昨年366haまで増えてきました。ニューヨークにも輸出が始まりました。5月26日には香港にも輸出が始まっている。</p> <p>転作の制度がなくなり、交付金がなくなってしまうと農業をやらなくなる人が出てきてしまうので、その時にどうするか。コウノトリ育む農法でやっている人はもっと増やせば、交付金がなくなってもカバーできるかもしれない。方向としては環境に良い農業をしてしっかり農家が儲ける。こういうあり様を豊岡の中に広げていく必要があると考えている。</p> <p>もう一つは、内発型の産業です。これは豊岡を拠点に世界と勝負するような、あるいは外から持ってくるのではなく、豊岡の人々の必要なものを豊岡の企業がしっかりと届けるといった産業のあり方を創っていかうとなんですけれども、コウノトリ育む農法は、この地に根差しながら世界と勝負するというあり様ではないかと思っている。この基本構想は抽象的ですが、具体的なものに落とししていく段階で、必ず豊岡の農業は出てくると思っている。</p> <p>有害鳥獣です。今の状況は共生できていると私たちは思っていない。共生できるような状態まで駆除をして、バランスをとらなければならない。</p> <p>昔シカを見ることはほとんどなかったはずですが。クマやイノシシも見ませんでした。今大量に出て来ていて共生ができない状態になってきている。豊岡市は鉄砲を撃つことができる職員を2人採用していて、猟師の有志と組織化をしてコーディネートをして鹿を駆除にあたっている。この3年間で2万2千頭の捕獲をしている。それでも減らない。自然との共生が徹底されている中に生きものの数が適正な頭数になるところまでもっていくことは基本構想の中で当然のことと思っている。この問題は今の問題としても着実に努力を重ねていきたいと思う。</p>
男性D	<p>子どもに豊岡へ帰ってくるなという親がいると聞くことがあり、そこをどうにかしなければ</p>

	<p>ならないと思う。</p> <p>子どもが豊岡に誇りをもって生きていくためには、リーダーというか周りを巻き込んで何かをできる人間が増えていくことがまちづくりが必要だと思う。</p> <p>豊岡に帰って来ないのは、帰ってきて何をしたら良いのかわからないこともあると思うので、学生の中に自分がこういうまちになったらよいという思いをもって羽ばたいてもらい、そして大学などで方法を得てこのまちに帰ってきてもらいたいと思う。</p> <p>また、都会にいても豊岡の人たちのつながる輪ができればよいと思う。</p>
市 長	<p>帰ってくるなどというのは現実にあると思う。つい豊岡など何もないと言ってしまふ、お前は勉強して都会にいい大学に入っていい会社に入れといっているが、本当はさみしい。堂々と帰って来いと言わなければならないと思う。もちろん帰るか帰らないかは子どもの人生でするので、本人が決めたらいいわけですが、少なくとも選択肢として大人は言わなければならないと思う。豊岡市の中でこの城崎はまだましな方だと思う。</p> <p>実は本日、地方創生戦略会議があって、新しく就任した教育長がこんなことを言っていた。2000年の時に6年生にバーチャル同窓会をやったときに、誰1人として豊岡に居るイメージがなかったそうです。3年ほど前にやったときに、2～3割の子どもたちが豊岡に居るという想定をし始めている子どもがいたそうです。</p> <p>この間に何が違ったかという2000年当時はふるさと学習という言葉すらなかった。地域のことを教えてこなかった。それがこの間にふるさと学習といい始めて学校現場でいろいろなことを教えるようになってきた、それが背景にあるのではないかと教育長は喜んでいました。</p> <p>選択肢に入ったうえで、東京でやろうというのは立派な人生ですし、豊岡でやろうというのも立派な人生だと思う。今は何となく東京にいる、という状況はかなりあると思うので、これは私たちにチャンスがあると思っている。</p> <p>リーダーを増やすことはとても大切だと思う。まちづくりの中のリーダーというのは、具体的にまちづくりをやってみる中で育ってくると思う。若い人は未熟ですがしっかりと提案ができて、頑張っていることをまちのみんなが認めてくれるという雰囲気を作ってこないとリーダーは育たないと思う。</p> <p>(城崎怪談の話)</p> <p>城崎というまちは、我々の出番がある。自分たちの提案がこんなふうに通って、受け止めてくれて同時に平田オリザさんが関わり一流の劇作家が関わって実現できたということによって学生たちの城崎とのつながりを強めようというのがねらいです。城崎怪談でお客さんにたくさん来てもらって儲けようというのが狙いではなく、そのことを通じて学生たちに城崎のイメージを売っていこうということです。</p> <p>これがもしうまくいけば第2弾、第3弾と、非常にセンスが良いイベントというものが例えば城崎できて、そこで学生たちに役割がある。できればそこに豊岡の高校生が入ってくると同じようなメッセージが伝えられるのではないかと考えていて、その試みとして9月にやります。</p> <p>こういうことをやる中からリーダーが育ってくるものと思っている。あるいは愛着をもっと持ってこのまちのために頑張らなければという思いが育ってくるのではないかと考えている。</p>